

# 碩心

可認岳風学院吟詩日本 会発会 行 神奈川 碩心

8年6月 逗葉大 子山船 地区計	現在 地区計	會員数 155名 217名 42名 414名	8年6月 根編中	6月 岸村	(287号) 行者 萃者 愛
---------------------------	-----------	------------------------------------	-------------	----------	-------------------------

## 行事予定

○岳風忌

日時・7月1日(月)

場所・諏訪地藏寺

※碩心会より林真岳・綾部秋岳・一柳道岳の三名の方が合祀されます。

○第42回夏期吟道講座

日時・7月20日(土)・7月21日(日)

会場・九段会館ホール・日本教育会館

※応用講座の部に加藤岳相・千葉岳関参加  
基礎講座の部に立澤御岳・朝比奈泰風

## 平成八年度 碩心会理事会開催

日時・5月19日(日)10時より

会場・葉山文化会館第三会議室

次第

司会 松井正岳

一、開会のことば

千葉岳関

二、碩心会の詩合吟

先導 中村岳郵

三、会長挨拶(代行)

加藤岳相

四、議事

イ、各地区長、部長報告

口、平成七年度決算報告

ハ、監査報告

ニ、平成八年予算(案)審議

ホ、任期満了による役員改選の件

五、議長並びに書記解任

六、閉会のことば

加藤岳洵

出席数の報告あり、理事会の成立が認められ、定刻、理事会次第により開会のことばに始まり、全員で「碩心会の詩」を合吟。

次に加藤(相)副会長より、根岸会長病気の為欠席。本日の理事会は定例の決算、予算議案の他、来年の当会創立60周年大会を控えての、役員改選の議案を審議していただく重要な会議であるので、充分に審議して本会推進に御協力をとの会長代行の挨拶あり。

議事に入るに当り、議長及び書記の選任を諮ったところ、会長代行に一任の声で、議長に加藤(相)、千葉副会長、書記に宇都宮総務副部長が指名された。

(議事)

イ、各地区長、部長報告

葉山地区長 沼田義岳

○各大会事業に協力の御礼。今後も協力を。  
○出吟者名簿の作成について、所定の事項

を確実に御記入を。

○会場使用に際しては、エチケットを守り大切に使用、後始末等最後迄責任をもつていただきたい。

逗子地区長 村田 潤岳

○昨年12月19日の逗子地区温習会、5月19日の逗子吟舞連への協力、又毎月の「吟友」「碩心」等の配布の協力に対し御礼。  
○三井相談役の指導者引退に伴う会員移動、指導者の変更について報告。

○故綾部秋岳、故高橋桜岳死去の報告。

大船地区長(代)岩崎 岳恵

○木村地区長欠席により、報告を代読。  
○1月14日の初吟会(大船地区担当)に各地区の皆様協力により無事終了、又4月27日の皆伝会には沼田葉山地区長の支援で、盛会裡に終了したことに御礼。  
○秋には大船地区主管による温習会が予定されているので皆さんの御協力をお願い。

総務部長 加藤 岳洵

○創立60周年大会を控え役員改選が遅れ、仲々着手できなかったが、本日の理事会で決定するので、早速午後の第一回準備委員会に於て、予定の平成9年5月25日、

又は6月1日開催に向つて発足したい。

○4月27日の皆伝会に約80名出席、前半は会員吟詠、後半は懇親会とし、有意義に行なわれた。

庶務部長 松井 正岳

○平成7年4月9日の大阪高槻での全国大会に、カップ返還の為松井正岳出席した。  
○6月18、19日の寒河江吟友会との姉妹会締結十周年記念吟行会に80名が参加。  
○9月1日七年ぶりに碩心会会員名簿を再版発行、全員に配布。

○9月17日海老名に於ける県大会に台風にめげず参加。又合吟コンクールに優勝。

○11月5日、盛岡での全国大会合吟コンクール(10名)に出吟したが入賞を逸す。

許証部長 中村 岳郵

○1月1日付総伝5名、2月11日付師範1名、4月1日付準師範2名、又同日付で初段から八段まで90名、5月1日付で皆伝21名、九段8名、十段3名が認許され、6月30日の碩心会温習会の日許証が授与される。

○秋の審査会は6月1日に会場申し込み、9月22日(日)を予定している。

広報部長 中村 岳愛

○月報「碩心」昭和47年8月発刊以来、この5月で23年10ヶ月となり、一号も休刊することなく続けられ、皆様の御協力に感謝。今後も一層の御協力をお願い。

○月報に行事予定、報告等記載。又会員の入退会、昇伝認許年月日、雅号等掲載するので、名簿を活用して下さい。

教務部長 杉山 岳雪

○昨年の総本部吟道講座には4名参加。県本部指導者講習会には42名参加。

○碩心会の指導者講習会は、毎月最終火曜日の19時から約二時間行なっている。

○平成八年度の総本部吟道講座は本日メ切りで現在4名申し込み。県本部指導者講習会メ切りは5月28日。会費千五百円を添えて申し込み。

企画部長 上村 象岳

○昨年十月の常任理事会で、故綾部秋岳部長の後任に指名され就任。よろしく。

○平成七年度の寒河江吟行会、温習会、初吟会は、庶務部長他の御支援で盛会裡に終了した。

○本年6月30日の温習会プロ編成印刷中。

○来年1月12日の初吟会は、湘南国際村「ロホス」を会場にして準備中。当番は堀内、風早、長柄の三支部です。

会計部長 矢嶋岳悦

○会費納入の御協力に御礼。前期分は総本部費が一括納入のため、合計一人四千五百円となり大変ですがよろしく。

口、平成七年度決算報告

○矢嶋会計部長が「平成七年度収支決算書」「特別会計60周年大会積立金」「教本其他頒布品残高表」をプリントにより読みあげ説明。

ハ、監査報告

○鈴木(兼)監査役より「いづれも正確にして間違いなし」との監査報告があり、議長から賛否を問うたところ、拍手を以て承認された。

ニ、平成八年度予算(案)審議

○矢嶋会計部長より「平成八年度予算案」を、前年度決算数字と比較しながら説明、賛否を問うたところ、意義なしで承認された。

ホ、任期満了による役員改選の件

○千葉議長より会長の更迭につき経過説明。

根岸会長から「病気の為、任期満了後辞退したいので後任を考えてほしい」の発言があり、一同、これ以上御苦労をかけるのは申し訳ないと思い、会長の意志確認の上、新会長選出の方向に進んだ。如何にして選ぶかについて諮り、相談役、参事も含めて選出方法を決めることとし、

4月18日、常任理事以上、相談役、参事による役員会を開き、選考委員を選び、無記名投票を行なった結果、加藤(前)副会長が会長に選出された。そして根岸前

会長を顧問に、千葉、加藤(前)両名を副会長とし、常任理事は全員留任を要請し諒承された。

○庶務部を総務部に戻し、総務部一本として、庶務部はなしとする。

○各地区長、副地区長、各部長、副部長及び資格審査委員、並びに皆伝会代表を、別表により報告、諒承された。

○加藤(前)会長の就任につき賛否を問うたところ、満場の拍手により承認、又千葉、加藤(前)両副会長も承認さる。

議事終了し加藤(前)新会長より、二ヶ年の任

期を全力を尽くし努めたいと決意を述べられこれからの協力をお願いするの新任の挨拶。次いで千葉副会長から来年の60周年大会を控えて協力を願いたいとの挨拶があった。

ここで議長並びに書記解任。加藤(前)新副会長から新任の挨拶と決意を披露したのち、本日の理事会も予定通り議事終了し、皆様の御協力の賜と深く感謝する旨の閉会の言葉あり、12時理事会終了。

宇都宮徳岳 記

(役員)

会長	加藤岳相	逗子地区長	村田岳瀨
副会長	千葉岳関	葉山地区長	沼田義岳
顧問	加藤岳洵	大船地区長	木村松岳
顧問	根岸岳萃	会計監査	鈴木岳抄
相談役	三井岳龍		鈴木萃岳
総務部長	松井正岳	参事	沼田岳雷
許証部長	中村岳郵		井沢岳潮
広報部長	中村岳愛		小峰岳海
教務部長	杉山岳雪		竹石岳泓
会計部長	矢嶋岳悦		森田岳鈴
企画部長	上村象岳		秋元岳梁

副部長、副地区長は来月号に掲載します。

碩心会 創立60周年 第一回準備委員会

来る平成九年、碩心会創立60周年を迎え、記念大会を行なうに付、5月19日、葉山文化会館第三会議室に於て、理事会終了後の午後1時から第一回準備委員会がひらかれました。大会の各係りの役割分担の説明、各係りの準備委員の発表があり、次いで各係別に集合、顔合せ、話しあいが行なわれました。

「自然と人生」の詩を読んで

逗子A 植村成風

私が徳富蘆花の「自然と人生」の詩を初めて読んだのは、今から二年ほど前の事でしたが、その詩を読みながら私の頭の中に、その詩の通りの情景が浮かびあがりました。

私は狭い部屋の中央に座っていました。回りをゆつくり見渡すと、薄暗く煤けた天井に、手垢のついた柱、破れた襖に所々はがれた土壁、擦り切れた畳の上には丸い卓袱台、その向うの明るい方を見ると、そこには小さな庭があり、左の隅には細い柿の木、隣家との境の竹垣の下には、可愛い草花が植えてある。

そしてその庭を見下ろすこれまた小さな縁側には、私を知る由もないが、年老いて人のよさそうなおじいさんの徳富蘆花が、あぐらをかいてのんびりと庭の草花を眺め、時々、向いの垣根越しに遠くを見つめて物思いに耽っている。そこには春の陽射しが優しくふり注ぎ、庭の花には蝶が飛び、草木の根もとでは小鳥が虫をついばんでいる。この縁側から見えるこれだけしかない小さな庭にも、何処にでもある普通の四季が巡ってくるのだ。

春には花が咲き乱れ、夏には満天の星がきらめき、秋には草木が色づき、冬には真っ白な静寂が訪れる。軒下では、春になるとツバメが巣を作り、卵を産み子を育て、秋になると南の国に帰ってゆく。庭先では、幾年も土中で耐え、やつと青空の下に顔を出したのも束の間、たった十日足らずで一生を終えてしまふ蟬、又その屍を大切な糧として生きている蟻たちがいる。こんな小さな世界にも「生」があり、「死」があり、又、「生」がある。雨が降り草木が潤い、霜が降りて葉を落とす

が、月日が経ち、又新たな命が芽吹く。私の頭の中には次から次へと、それらの様子が浮かびあがってきました。これらの永遠

に続く自然の営み、この自然こそが私達の財産であり、徳富蘆花の記した宇宙の富だったのではないだろうか。

私はこの詩の奥の深さと、その表現力の豊かさに感動しました。たった一片の詩で、小さくて身近な自然と、そして自分達も宇宙人だったのだと気付かせてくれる雄大な自然を表現し、読んだ者にこれだけの想像をさせてくれ、大きな感動を与えてくれた徳富蘆花という人物に、尊敬の念が絶えません。

これからも多くの詩を読み、たくさんの新たな感動を味わいたいと思います。

(支部長変更)

逗子B支部長立澤御岳に代り磯村朋岳に

(入会)

454 上野マサミ 葉山町堀内一四六三

(勲・D) 〇四六八―七五―〇一三一

455 高橋 俊子 逗子市池子二一四一七四

(若葉) 〇四六八―七一―二七八九

456 宮崎 京子 逗子市桜山三一五一一三

(若葉) 〇四六八―七一―〇四五二

(退会)

355 大井治山(松和) 369 橋本豊泉(銀詠)

(右駿河岳風会へ移籍)